



近畿病院図書室協議会に入会して

吉原 理恵

I. はじめに

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部大阪府済生会 大阪府済生会中津病院 (以下、当院) は、2014年4月より近畿病院図書室協議会 (以下、病図協) に入会しました。この1年を振り返り、病図協に入会してよかった点や気付いた点、併せて済生会という組織が持つ独自のネットワーク「済生会図書室連絡会」の活動について、2015年3月病図協事例報告会にて報告しました。

II. 済生会について

済生会は40都道府県に79病院、その他の福祉施設を合わせると372施設を有する社会福祉法人です。

明治天皇が生活困窮者を医療によって救済する「施薬救療」を目的に1911(明治44)年に設立しました。

初代総裁・伏見宮貞愛(ふしみのみやさだなる)親王殿下が、1912(明治45)年に済生会の事業の精神を野に咲く撫子に託して歌をお詠みになりました。

「露にふす 末野の小草 いかにごと あさたか
かる わがこころかな」

野の果てで、露に打たれてしおれるナデシコのように、生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人はいないだろうか、いつも気にかかってしかたがない

この歌にちなんで、いつの世にもその趣旨を忘れないようにと、撫子の花葉に露をあしらったものを、1912(大正元)年以来済生会の紋章としてしています¹⁾(図1)。



図1 済生会の紋章「なでしこ」

「施薬救療」の目的を果たす制度として、社会福祉法第2条第3項に基づき、生活保護受給者をはじめ経済的に困っている人が経済的理由により医療を受けることが制限されることのないよう、医療施設を中心に医療費を無料や減額したりする「無料低額診療(無低)事業」を積極的に行っています。この事業は済生会のミッションともいえる事業となっています。

その無料低額診療事業の対象者に対し、済生会では独自の『なでしこプラン』を行っています。病院・施設において関係職員によるチームを編成し、健診事業、訪問看護、無料健康相談所の設置など、施設外に積極的に出て活動する事業です²⁾。

また、日本唯一の診療船「済生丸」が瀬戸内海67の離島を巡り診療を行うなど、離島やへき

よしはら りえ：社会福祉法人 恩賜財団済生会支部大阪府済生会 大阪府済生会中津病院

地での医療にも力を注いでいます¹⁾。

Ⅲ. 当院の概要について

1916 (大正5)年10月10日に「済生会大阪府病院」として、全国の済生会79病院の中では3番目に、そして大阪にある済生会8病院の中で最初に設立されました。開院当初はわずか75床の病院として設立された当院も、2016年には100周年を迎え、現在では許可病床も748床、31の診療科を有する、大阪の主要ターミナル駅に隣接する都市型総合病院となっています。

また当院は、中津看護専門学校、医療型障害児入所施設である大阪整肢学院、児童福祉施設である大阪乳児院、特別養護老人ホームである喜久寿苑、介護老人保健施設であるライフケア中津、訪問看護ステーションなどからなる、中津医療福祉センターの中核をなしています。

Ⅳ. 当院図書室について

図書室は当院事務部長直属の部署になります。面積は123m²、座席数は20席、パソコンは8台を設置しています。主な和雑誌・洋雑誌の他、電子サービスとして医中誌 Web、メディカルオンライン、Clinical Key、Up To Date、Springer Linkなどを購入しています。

Ⅴ. 病図協に入会するまでの経緯

私は現図書室の2代目の司書であり、常勤として1人で担当しています。

医学図書館員としての知識は皆無で、引き継ぎも十分ないまま図書室業務を開始しました。社会人としても初心者で、かつ指導者がいないため、さまざまな部署の方や他院の司書の方に助けをもらいながら軌道に乗せていきました。知識を得るために、会員外として何度か病図協の研修会にも参加させていただきました。

近年、医学系図書館におけるインターネットの普及に伴い、冊子体での雑誌提供のほか、多様な電子サービスが提供されはじめ、当院でも電子サービスの導入を進めていくことになりま

した。そのため他施設の導入状況や予算、利用者指導などの情報を得たく、また自己研鑽のために2014年4月より病図協に入会しました。

Ⅵ. 入会して良かった点

1. 文献複写依頼が容易になった

KITOCatを利用することにより、所蔵館の確認から複写依頼までが効率化されました。また、依頼先の支払い方法が常に確認できるので、状況に合わせた依頼先をスムーズに探すことができるようになり感謝しています。その上他施設の担当の方の対応が迅速であり、文献入手にかかる日数が短くなったと感じています。

2. 研修会に参加することによる知識のアップデート

2015年1月に行われた文献検索アップデート講座は『図解 PubMed の使い方』『わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド』両書の執筆者による講義でした。両書は初級の検索方法から一歩踏み込んだ検索方法までの理解を深めることができる本です。検索システムの機能を理解し使いこなすことで、利用者の求める文献を的確に探すために役立ちました。自信をもって検索指導にあたるようになるために同様の研修会には今後も参加したいと思います。

3. リポジトリの参加

当院では『中津年報』を発行しているので、ぜひ収載を進めていきたいと考えています。

4. 近図雲での情報収集

近図雲は情報交流の場として利用させていただいています。

例えば、毎年の予算問題や業務の効率化にどのように対応されているかなど、他施設でのいろいろな取り組みや状況を業務の参考にできました。

他に参考にさせていただいた場としては、2014年10月の交流会がありました。購読誌の見直しや予算についてお聞きしたり、臨床実習生への対応方法や職員以外の電子サービスの利用についても検討することができました。

5. 統計データの利用

病図協加入施設の現状が統計データとして見えるため、当院の状況と比較することができます。同規模病院の予算はどれくらいか？蔵書数はどうか？その他の経費は？など、他施設の状況を病図協の統計データから読み取ることができました。

こうした統計調査は経年で続けていくことで、単年では見えてこない病院図書館の移り変わりがわかる資料と思われます。

VII. 入会して苦労している点

1. KITOcat の入力

相互貸借の面で利用させていただく側としては非常に便利になった反面、利用させていただく側としての問題点もありました。

まず、当院で作成していた目録の記載形式が NACSIS の形式とは異なっていたために、書き換えを行いながらの登録作業となってしまうこと、加えて当院では欠号タイトルが多いことから確認作業も行いながらの登録作業となっているため、KITOcat への登録が進んでおりません。当院からは複写依頼をする一方となっており、複写受付をできる状況が整っていないことをもどかしく思っています。

VIII. 済生会図書室連絡会について

2007年に済生会の機関紙「済生」の中で、病院図書室の特集が組まれました。その後2010年に「済生会図書室連絡会」が発足し、さまざまな情報交換が行われるようになりました。活動内容としては主に4つがあげられます。

1. メーリングリストのやり取り

連絡会の活動の中心で、各病院の担当者が図書室運営に関する疑問を解決できる場となっています。

2. コンソーシアム

全国規模のネットワークを生かした共同購入コンソーシアムです。済生会全体で多額の予算を削減することができました。

3. 共同研究活動

4. 研修会活動

IX. おわりに

移り変わりの激しい医療業界において病院図書館もその中にあります。

当院でも以前は冊子体の購読が中心でしたが、電子ジャーナルの購読が増えました。これまでは洋雑誌が牽引していた電子ジャーナル化でしたが、今後は和雑誌や図書も移行が進んでいくものと思われます。

図書の管理が中心だったこれまでの図書室から脱皮し、どのような図書室を作り上げていくかが長期的な課題です。情報環境を整えどのように図書室を周知していくか、病図協で学べなければと考えております。そして司書としての技術や知識の向上を目指し、得た知識を利用者に還元していきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

参考文献

- 1) 社会福祉法人 恩賜財団済生会. [引用 2015-05-27].
<http://www.saiseikai.or.jp/>
- 2) 社会福祉法人 恩賜財団済生会支部大阪府済生会中津病院. [引用 2015-05-27].
<http://www.nakatsu.saiseikai.or.jp/>